

## 3才児の“電車ごっこ”の環境構成についての一考察

高月教恵

(新見女子短期大学)

はじめに

筆者は、先の研究で、子どもの主体性の育ちの教師のかかわりとしては、“環境構成”と“いっしょに遊ぶ”という教師自身が幼児の生活を誘導してやるのが大きなポイントになることがわかった。

環境構成の年齢差についてみると、3才児の場合は、子どもの興味関心を教師が見取りながら環境を整えていっているのに対して、5才児の場合は、教師が子どもの興味関心を見取りながら環境を整えている場合もあれば、子どもが環境を用意しようとするのを教師も手伝って環境を整えている場合もあれば、話し合いの場と時間を確保している場合もあることが明らかになった。

本稿では、3才児について、子どもの興味関心を教師が見取りながら環境を構成するとは具体的にどういふことかを考察する。

### 1 研究の目的と方法

#### (1) 研究の目的

“好きな遊びをしている”子どもの様子を、保育者が実践指導する中で観察した記録に基づいて、3才児の環境構成について考察する。

#### (2) 観察の方法

保育者が子どもと生活する中で観察する自然観察である。

①場所 倉敷市Z幼稚園(3才児5クラス104名  
4才児4クラス109名 5才児3クラス90名 教員数17名)

②対象 3才児Aクラス(男8 女10)  
3才児Bクラス(男8 女9)

③観察者 各担任教師

④観察期間 H8年11月～12月

⑤観察場面 先の研究で3才児R男の主体性の育ちが見られた自由遊びの場面を見ると、4月では三輪車・うさぎの餌やり、5月では砂場で教師とケーキ作り、6月では教師や友達とかたつむりの観察・N子とかたつむりの家や橋作り、7月ではB男とストローつなぎ・S男やM子と魚釣り、9月ではハンカチでおむすび作り・ティッシュでボール遊び、10月ではK男やB男とうさぎの玉入れ、11月では友達4～5人とお金作り・N子と教師とU男でケーキ屋さんごっこ、12月

ではN子と教師とU男でカバン屋さんごっこ、1月では教師や7～8人の子ども達と鬼ごっこ、2月では教師や友達とサッカー、3月ではK男とスケーターごっこ・U男や友達と大型積木で遊ぶ、であった。以上のことから3才児R男の主体性の育ちは、友達との共有遊びの場面で多く見られることがわかる。そこで本稿では、偶然に3才児の二クラスで展開された自由遊びでの“電車ごっこ”に焦点をあてる。

⑥記録整理の方法 筆者を含めたZ園の全教員で研究会をもち、担任教師から出された観察記録についての話し合いに基づいて、子どもの活動の様子と教師のかかわり(環境構成・態度)について記録を整理する。

### 2 結果と考察

#### 記録1 Aクラスの“電車ごっこ”と教師のかかわり

11月1日 ◎保育室に絵本・積木・ブロック・ままごとを用意しておく。

○弁当を食べ終えた子ども達から絵本を見たり積木やブロックやままごとで遊んでいる。N子がブロックの入っていた箱(コンテナ)に入って「私はバスよ」と言うとH子も「私も」と言って箱に入り2人はバスに揺れている格好をする。しばらくしてN子が「今度は電車ですよ」と言うと「僕も乗せて」と言ってR男が加わる。箱を5個つなげて3人は電車に乗っている気分を体動かして楽しむ。しばらくしてN子が「大変 雨が降ってきた」と言う。R男は「かさをかぶろう」と言って傘をさす真似をする。H子も「私も」と言って傘をさす真似をし、3人はそれぞれに傘をさす真似をして楽しむ。R男がどこからかざるを探してきて頭にのせる。「雨だ雨だ」「大変 ぬれちゃう」などと口々に言いながら楽しんで電車ごっこをする。

この遊びは降園の準備が始まるまで30分ほど続いたが、その後の展開はなかった。

11月26日(木) ◎午前中、園外保育で近くの駅に行き新車輪に乗る。○弁当を食べ終えたS男とN子が積木をつなげて迷路(道)を作る。駅でキップを買ったことを思い出してブロックをお金に見立てようとしている。◎お金作りを提案して、牛乳キャップ・マジックを用意する。○子どもが加わり8人で黙々とお金を作る。

11月27日(金) ○昨日の6人でお金を作りお金

を使って工夫して迷路遊びを楽しむ。この遊びは29日まで続き、その後は2・3人が集まって思い思いに遊んだ。

〔注〕○は子どもの活動

◎は教師のかかわり（環境構成・態度）

記録2 Bクラスの“電車ごっこ”と教師のかかわり

11月21日(木) ○年長組が“迷路作り”や“忍者屋敷作り”をしているのを見て、「僕達も何か作りたい」と言う。

11月25日(月) ◎園庭で行われている電車ごっこに興味をもっていることから電車を作ることを提案する。段ボールで作った電車の土台を部屋に置く。画用紙・牛乳パック・空き箱・紙袋・毛糸の廃素材を分類して用意しておく。○「電車に模様を付けよう」というM子の発想で、用意された材料や自分達の道具箱からハサミ・のり・サインペンを出して、思い思いに絵を描いたり、画用紙に描いた絵を切って段ボールに貼ったりして、クラス全員が参加する。◎K男「駅も作ろう」、Y男「線路も作ろう」と言うので、段ボールで看板を作り、ビニールテープで床に線路を貼る。

○この活動はおやつまで1時間続く。

11月26日(火) ◎午前中、園外保育で近くの駅に行き、子ども達と新車に乗る。○昼食後自分達が作った電車に乗って遊ぶ。A子が牛乳パックで切符を作り、M子が加わる。M子が切符でくじ引きをして電車に乗ることを提案する。C子とD男が加わる。E子が「ちょっと駅が暗いから明かりをつけよう」と言って金色の糸で看板に明かりをつける。◎教師は見守りながら客になって参加する。○電車に乗ったり、切符屋さんでくじ引きをしたり、駅の装飾をしたりしてクラス全員の子ども達が思い思いに“電車ごっこ”を楽しむ。……………この活動は29日(金)まで続く

11月30日(土) ◎線路とは関係なくあちこち電車を走らせているので園庭の切符売場と駅を保育室に置く。Y男のお金を作りたいという思いを知らせ、牛乳キャップとマジックを用意して、子ども達と一っしょにお金を作る。○K男・Y男・K子・M子が中心になりお金作りが始まる。◎「お金で切符を買いに行こう」と誘う。○切符を買うこと・売ることに関心をもって電車に乗る。M子が駅にイスを並べる。◎椅子に座って電車を待つ。○A子・B子が中心となりまごどコーナーで焼きそばとマグドナル作りが始まる。◎食べに行く。○思い思いに電車・食べ物屋で楽しむ……………  
12月5日(木) ◎食べ物屋さんにおにぎり作りを提

案し、紙とセロテープを用意する。○数人が集まっておにぎりを作る。◎おにぎり作りを手伝う。○M子が電車に乗っておにぎりを買いに来ることを提案する。“電車ごっこ”と“食べ物屋さんごっこ”が合体してクラス全員の子どもが各々楽しそうに参加する。……………○おにぎりを車内で売ったり買ったりし始める。食べ物物を袋に包んで渡す工夫をしたりする。……………  
……………冬休みに入るまでこの活動が続く。

Aクラスの“電車ごっこ”をみると(記録1参照)N子が午前中の園庭での乗り物遊びの影響を受けて、教師が用意したブロックの箱をバスに見立てて遊び始める。H子やR男が加わり3人で箱をつなげて電車に見立てて、イメージを共有しながら電車ごっこを楽しんでいる。しかし、その遊びは30分程続き、その後の発展は見られない。教師の“電車ごっこ”についての環境構成も見られない。11月26日に駅に園外保育に行ったことによりお金に興味を示したが、“電車ごっこ”への発展は見られなかった。

しかし、Bクラスの“電車ごっこ”をみると(記録2参照)子どもの思いを教師が受け止めて“電車ごっこ”を提案したことをきっかけに、約一ヶ月間クラス全員の子ども達が各々積極的にかかわって“電車ごっこ”をしているのがわかる。ここでは教師は積極的に環境を構成し、“電車ごっこ”に参加している。教師の環境構成をみると、①段ボールで作った電車の土台を保育室に置き、製作材料を用意する(1/25)、②子どもの思いを受け止め段ボールで看板を作り、ビニールテープで床に線路を貼る(1/25)、③線路とは関係なく車を走らせるので園庭の切符売場と駅を保育室に置く(1/30)、④子どもの思いを受け止めお金作りのキップとマジックを用意する(1/30)、⑤おにぎり用の紙とセロテープを用意する(1/30)、である。このように環境構成をしたことによって遊びの枠組が明確に示されたと考えられる。鹿島は「保母が枠組みを明確にするという主導的な役割を果たすことにより共有遊びを促進した」と報告しているように、教師が環境構成をしたことが“電車ごっこ”を発展させた大きな要因になっていると考えられる。また環境構成をする場合①③⑤のように子どもの活動より前に環境構成をしている場合と、②④のように子どもの思いを受け止めて環境構成をしている場合があることがわかる。倉橋は「誘導保育案の場合には、先生は子どもを前にしてから動きだす者ではなく、子どもより先にあるものがある」と言っているように、子どもの活動を見通しての環境構成の在り方が重要なポイントになると言えよう。